



明へ遠13
第804
巻

古今奇談美句冊第五卷

八猥瑣道人水品を辨一五官の音を記す話

隱逸の類ハ身を我ものごとくして勤人とする時ハ方域を越えて花紅
を打ち月の最中も名に成りてゆめ位置つれてハ遠き山水
の地一遊を遊居に朝暮らるゝてハ一歩の地ハ蔓草小滝を
下小菊を著ひ頰赤を敷るに紙を橋中其茶を圍む小室の内ハ一籠
半杯の清酒は狼烟を軒と。半障片幅の濃茶は幽襟を楽まむ。漆
掃筋力を按摩し。晚飯の美食ハ岩生す。塵俗の雜具なそれども。
自ら猥瑣通人といひ菴を自在と顯し。飲を苦茗に親む。時いさ文
圃に瑤廬の好むやあらず。趣を叩く人もふし。身ハかくてそ。今利
益なきも冥加いふ小と五音れ人相を施す。け道やと去れりハき人さ
合せて我より合つとす。後來の合さるやを故あるべし。それ後後と



古今奇談美句冊第五

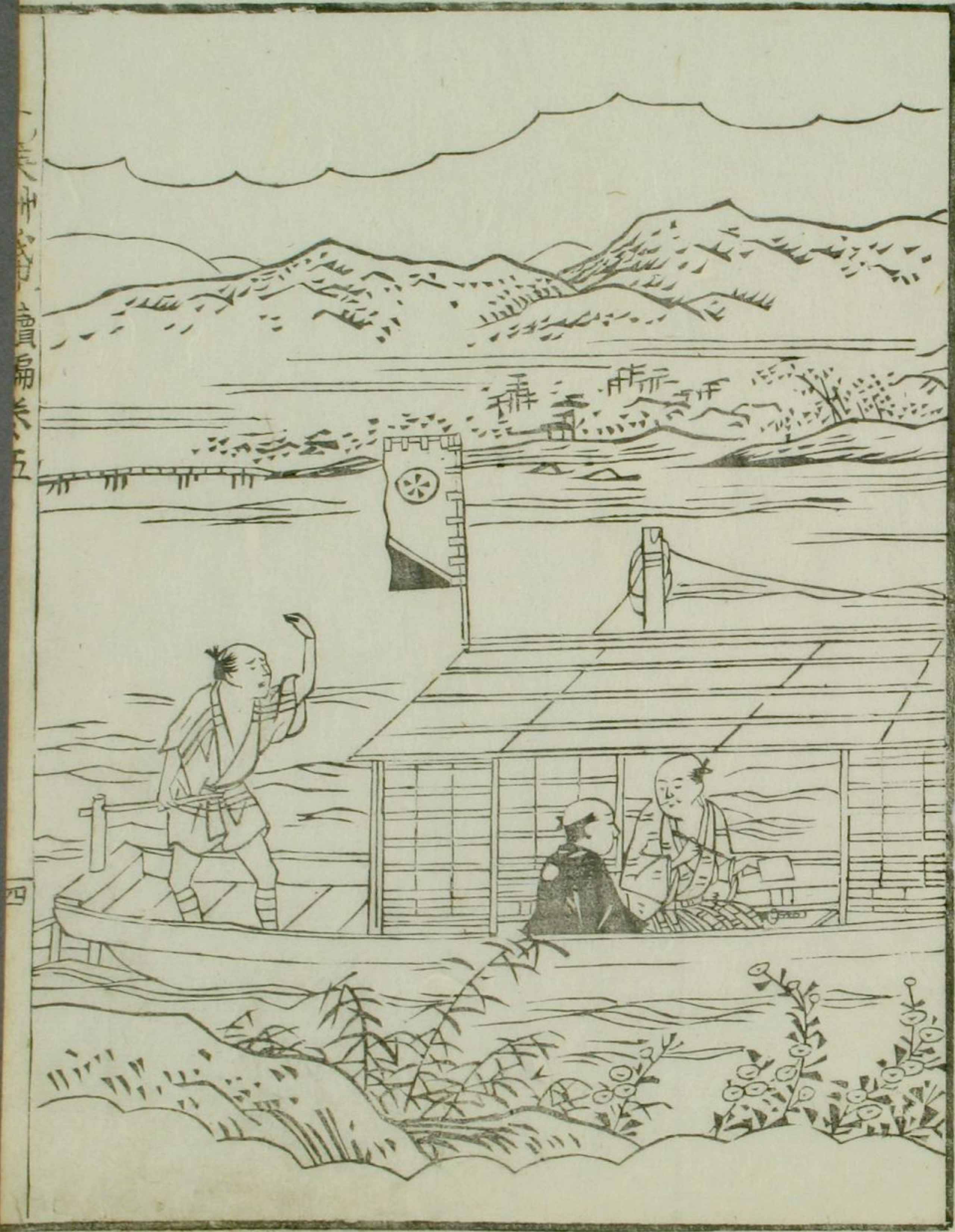
の。道義に接しざれば人乃心緒を乱る。五倫に害あり。男ハ後の時を
先ておのまが志を成しずれば。女ハ今を假して己が世を期す。骨法は
上古よりす。そ中興の陳國南ハ洒落セ。高唱して。抑揚吟を弄ひ
ころ。扱け業こそ人情に近く。敬して相を成るものおほし。さあ若くは
相者小後の富貴を祈ると。弊よりあり。勝てる者相もなく。悪相もな
し。おふか告無とも。無紂あるべし。泉の場なる富貴の妻ありて。相を成
む。女ハ其の相もよく。自身の相を可く。べといへど。落て。後
世ハ其を聴相とる小。其言多宮正にて。室家小宮しく。壽算あり
しと。後とふ。又一愛人を相して。其下素性。其人あり。志も平土
こわらば。今高とあま。も。財利はば。名利はば。いと。後とふ。其等
皆。後小令。相なり。扱け。後者ハ平之。高。其。高。山。政。長。の。家。人。か
す。遺命を承て。子息尚慶十二。な。れ。る。大。和。の。奥。那。へ。忍。む。を。さ。

身ハ出家して名を包。之紀の慶とつ。不。幽。居。自。炊。け。ら。幼。より
葉室納言は侍して。才学あり。其。巴。河。り。来。る。蜷。川。親。長。と。て。父。大
和の。場。つ。禪。儒の。学。は。け。り。し。餘。風。親。長。も。文字。あり。て。詩。歌。工。あり。
撰。撰。の。位。な。む。ら。さ。ぬ。ん。と。ぬ。く。ち。か。こ。り。る。通。人。ハ。身。の。之。を。擇。り。て。や。と
程。文。は。素。性。を。下。地。より。て。か。し。親。長。が。撰。撰。を。成。む。ら。ぬ。く。卑。下
り。て。云。世。よ。き。人。大。人。ハ。高。屋。大。慶。と。坐。し。て。公。を。逸。し。ぬ。く。と。も。そ
き。こ。と。人。よ。遠。け。き。ハ。寂。し。く。小。斎。学。堂。を。用。さ。古。人。の。之。を。後。も
あり。容。膝。の。茶。室。に。炉。を。圍。て。位。き。さ。ら。一。窓。支。用。の。辨。易。を。空。ま。し。
水。釜。の。蓋。こ。と。並。け。ハ。せ。ら。み。狭。室。の。進。退。死。偶。の。風。流。も。好。し。山。下
此。草。菴。も。光。輝。を。及。ぶ。し。道。遙。の。小。船。よ。之。奥。を。新。さ。し。小。亭。幽
館。ハ。自。ら。紅。袖。の。傍。近。ま。は。懐。き。深。さ。ま。ぞ。ぞ。り。る。の。乃。ん。下。民。の
ま。ど。し。こ。己。が。耕。と。畝。の。端。ま。く。居。て。常。に。棧。柵。小。に。迫。り。て。る。

（天）

死ハ甚ゆやうらむさよ。ゆづりてはひく歩くぬ流すもかべさう。
親長実も迫るる室の内ハ墨の碓偶しそむえあつていと同一。
云。なほよるま拍を排列ハ八様四方梅花様とて固められたよ一拍あを
右ハハミズ。必用の冥器ハ野ニ使をさる。好事の志墨ハ雅ニ親
をせりうと。雅も利する人多けきバ俗とあり。俗も稀ニ見れも雅ニ混
ず。天竺の山水ハ眼下ニ在りとも人物の掛幅ハ貴人教誨する公地
とともさずや。親長云。冥も山上此山かんく。舟中れ舟ハハ小棹さ
ん美ニ教奇常ニ伴像まげあるハ自然あまきバいう小せん朝夕ハ左右
する洞度ハ小舟のうやとく。篋を兼ね櫃を同くし。外人素小あ
まて我ハ使役さるがめくからハ使室の要して自在ハ誰もねがふあ
れハ和尓の自在庵も家を出る名ハあつて。之を學うよ出家と名
を竊めハも妙初野の回顧る人のハ役けく。塵壺ハ世世ぬハ念地

よ似て。室の外ハ根う一擗せて。袖を招へき樹ハ自然ニ瘦せ。細を架
の石ハ有まき小凸あり。初作其燥て頂を撲へき低摺あり。身心を降
伏して背を踏むの小牖あり。水ハ山後より一流して第一義あり。泉
源近きハ毒あり。汚漆の流を交るハ深く井水の若てき地ニ居
ぐるさあり。徳ハ碓。澗ハ碓。うらむと。そ。洗むらぬありそめりう
す。自筆ハ書も画も轍を親せければ親長一幅を拵せあつて書畫
ニ凝ぎらるハ人のさあも知れ。和尚の鑿を借くと。そ。壁ニ掛張を
日鏡の蒲椀故ありて河内遊佐殿より移ら。托紙ニ真相乃鑿堂の
こと。根頭是太ハ傳來あり貴殿なるべしと。進で又返て看む。雅
を美称と。そ。う。座を造るす示されよと。て。疎忽の思。究めよと。念
あ。ハ。幅紙ハ元朝よりして。か。ゆ。子の印色。淺。め。麻。油。朱。な。り。が。又。也。死。
是ハ画友進の幅を素より落款たりと。後人擬名を堪る



英州府志卷之五

五



英州府志卷之五

三

とてそんゆらと。我長才。僕がこひもそ。砌小わらぬ。予。鑑。欽。伏。と。一。
是を以てよよ。世小。傳。未。降。うて。鑑。よ。頼。て。古。人。の。等。を。欲。と。る。犯。
ん。費。あ。る。い。な。し。古。人。の。手。跡。れ。因。縁。乃。家。よ。違。う。ら。る。ハ。奇。偶。と。し。よ。
一。し。それ。を。募。う。て。類。せ。ん。と。ま。れ。ば。二。品。と。品。を。ま。れ。ば。ま。く。も。欺。さ。哉。
拓。く。骨。を。賣。し。て。良。馬。到。る。ハ。拍。子。を。か。き。鑑。識。一。人。さ。し。れ。ハ。贗。魔。一。
丈。高。し。傳。本。を。授。而。と。れ。ば。ま。正。に。贗。作。る。鑑。よ。人。を。ゆ。ぞ。れ。ハ。鑑。
者。自。を。欺。さ。人。を。欺。く。鑑。も。亦。頼。む。べ。く。は。と。語。れ。ら。る。此。我。長。八。人。の。
知。ら。る。相。劔。さ。う。々。れ。ハ。は。菴。よ。訪。て。來。る。賈。人。和。尚。に。托。し。て。眼。を。借。
ら。ん。と。け。日。從。者。門。に。遲。を。入。て。入。來。を。知。り。拒。糸。す。道。人。櫃。を。進。め。鑑。
を。下。し。劔。ハ。色。と。め。せ。ら。る。親。長。禮。儀。し。て。先。和。尚。一。語。と。辭。さ。る。時。俗。
家。よ。不。勤。の。意。さ。ま。も。粗。忽。さ。ら。う。五。音。よ。て。法。じ。べ。一。と。子。別。ぬ。併。
よ。て。先。中。根。枝。流。ハ。一。さ。ら。さ。線。さ。う。靴。を。ま。む。抜。け。て。拵。を。い。く。強。く。

こと。幾。度。云。是。之。百。年。ハ。疾。さ。ら。う。又。一。勝。を。え。て。強。く。こ。と。幾。と。い。
え。け。劔。ハ。彼。よ。り。二。百。年。さ。ら。う。古。し。と。云。親。長。一。劔。を。把。て。靴。を。放。
ち。て。相。ら。針。樞。柁。理。小。地。色。白。く。沸。星。ま。く。背。う。ま。く。接。さ。く。二。字。の。
銘。あ。る。ハ。是。寛。弘。の。派。治。行。平。の。お。托。是。を。古。作。に。教。べ。し。今。一。劔。を。
見。ら。小。拵。お。り。て。よ。う。か。う。を。強。く。刃。う。ま。く。と。花。あ。れ。ば。も。古。作。と。ハ。
稱。せ。ず。是。ハ。冬。後。の。行。平。と。て。昔。和。の。派。治。な。う。實。に。寛。弘。を。去。こ。と。
二。百。年。よ。近。し。五。音。の。術。も。ま。ま。奇。な。ら。う。れ。と。感。じ。ら。う。愛。人。も。
劔。相。よ。う。ハ。是。を。妙。と。し。鑑。定。成。り。ぬ。と。怪。し。一。頃。山。背。の。宇。治。の。水。乃。
よ。土。沙。柵。れ。肝。葉。を。令。せ。し。れ。て。彼。よ。ま。か。ま。ハ。飛。揚。の。志。な。ま。や。と。誘。
わ。る。道。人。拵。し。も。是。の。氣。を。勞。ハ。ま。バ。遠。恨。ま。さ。ら。う。そ。ら。て。少。山。を。め。
ぐ。れ。ら。水。ハ。中。峽。を。酌。て。中。焦。を。治。ま。と。又。順。流。水。を。用。て。下。焦。を。治。し。
急。流。水。の。膈。を。開。く。れ。氣。ハ。河。工。よ。て。効。ハ。し。茶。を。煮。ま。ハ。分。別。是。め。

○美神... 賣... 五

五

あつる試みることなり。公ハ美人をきバ。宇治ハ夫を憎むるこを幸
なき。一壺の溪水をきて土儀ハ初ハレ。彼流ハ鹿飛ところを上峽と
し。湖水を引て漸く峽ハ入きバなり。志津河を中峽と。宇治橋
の級差を下峽とす。此峽の内ハ昔の人下峽を告とす。吾ガ欲す
るハ是中峽なり。志津川と合て水勢盛あるをみる。親長は程の庸易
あらんやとうけがひ多れば。道人甚び歎侍て恙あややがてこそとておれ
ぬ。親長云命を奪ひ彼よりす。まハ舟を引せ。嶮き所よりしてはらうて
渡行す。あうらうらめ流者よかろ。け志津川の氷こそ。櫻吹雪のあつら
り。雨ぞと。從川上の柵不ぞ。檢知ハ己ハ舟を下け流ハ治ハ時。
け水路ハ名よらう。文苑なきバ。景拍ハ奪きて不を失つ。誰もよ
小湖水ハ懐度くして。眼の及ぶる京地多く。遠望して穢のこ。け宇治
此京ハ望をみる不せま。一小園ハ流を引がぬ。そ望は近されバ。

五孫公子遊賞終えず。吟咏古来多く。禁裏ハ旁らめて香わよ。ゆ
朝日山ハ誰も臨て眺望とく。内位をぬげり。遊ら。宇治の弱冠子
の山陵こそ。そけは。網代夢割の石浮。回魏苑と奪きて砂洲ハ立つ。
時ハ山吹の花は。比平等院の菊より。川辺ハ沿て。橋の小崎の傍ハ
咲け。けらら。日ハ影をそはされて。川瀬の金色をなす。親長云。て棟棠
の名空ハ。侍ハ硯を備へ。め。碓で。そま。ハ又湯す。逢ハ
おそ。と史之方。不憚流水急。唯恨盡遲来を吟して。奥より。
金風の山吹ハ。漸と。咲。ハ。花ハ。公ハ。ま。う。ら。う。そ。そ。丸。礫。の
うら。う。ら。う。さ。と。

秋草山吹名有。則有馬黄金不換。今日此時
けあひ。ご。急流志。ご。も。た。ゆ。ハ。ず。速。ハ。橋。を。る。そ。た。れ。ハ。舟。子。と。さ。け
ひて。今。下。ハ。舟。を。引。上。げ。と。催。せ。と。け。急。流。い。ご。ら。ま。う。せん。榎。の

島よりの。不詮督役廠よりして。又こそ急流は遊さんと。よづら一
壺の水汲汲奉て。之ハ上峡の水中峡より。中峡の水下峡に流る。い
はせりとの差別あんと。瑠璃は傾け入る。まき封を加へる水調ひ
ぬと。監督の業成り南紀より。提へて自ら是を發す。通人
既ひ。即座に鍋中へ做けり。そ滴多きを受て。呀うけよ。是何ぞ中
峡の水なん。まき下峡もあは。燻よ上せ茶を試るよ。及むすと。壺を
函て。中。彼上峡ハ流おほく水わらうよ。お氣あつて。中峡ハ水
勞せし。土泥で。下峡ハ。沙湧て。まきく。是納
實ハ中焦の痰あり。試よ中峡の水を。茶を服せんと志す。是下
ぞ。飲んで服用を。親長大に。是僕が上人を試らう。け
水ハ我も。汲て。和尙の命を。兼て近侍が。あつて。め
是こそ。是老よ。持せ。一壺を。試よ。通人役ち。教

瀧を。さう。つ。そ。瀧を。さう。そ。と。大に。収て。納め。お。親
そ。通の。室。う。を。感。友。誼。い。よ。親。か。り。そ。比。の。時。近。江。あ。る。石
丸。乃。何。某。命。を。守。し。て。兵。衛。の。奇。藤。を。征。す。款。加。勢。多。く。却。て。散。り
小。お。原。石。丸。も。戦。死。す。畠。山。政。光。大。家。れ。内。供。し。て。大。和。符。井。の。城。入
を。う。んと。乃。を。探。せ。と。往。來。塞。う。て。自。在。あ。ら。ず。大。家。を。る。ハ。不。定。め
ず。泉。接。の。善。悪。の。氏。家。い。ひ。そ。み。や。堺。の。高。人。を。藤。屋。某。畠。山
乃。善。好。あ。れ。む。を。を。お。し。忍。む。せ。な。ら。ず。旅。人。の。体。う。て。く。せ。あ。ら。ん
と。昔。き。う。け。ま。ま。人。ハ。遠。ぶ。り。て。あ。ら。れ。も。畏。ら。ず。あ。ら。ん
私。口。より。毒。女。の。害。れ。る。よ。入。せ。ま。ら。ん。と。約。し。け。ら。な。ら。ん。政。光。ハ。先
よ。り。て。内。庭。に。あ。ら。ひ。お。回。し。て。待。た。る。を。お。し。も。雪。隠。り。て。小。止
あ。し。け。ま。り。木。深。と。い。高。人。お。ふ。けて。通。ら。あ。い。せ。お。後。の。齒。さ。ま。り。は
う。ら。を。門。の。板。う。て。叫。き。あ。ら。ん。内。より。唯。と。言。ふ。政。光。純。み。音。と

暇をれば。い本音合て官を執る。是身を匿すの信あり。似せて叩く。狂刃公とて。つ内戸に。後役けらる。あ人の使女。を辭し。開き。えより火いて。噂。あは。手と拵て。さる。れ。奥の。内。案。心。中。屏。風。立。圍。上。壇。上。清。なる。政。光。抽。け。け。ら。る。て。強。義。の。さ。り。ふ。か。い。う。よ。し。て。あ。れ。を。さ。り。し。め。す。べ。し。互。身。の。大。さ。な。り。と。い。ひ。て。そ。の。身。は。光。が。れ。ま。ひ。し。後。門。に。お。ぬ。女。房。お。こ。り。て。さ。も。母。が。せ。み。し。も。い。り。て。お。の。け。ぬ。様。作。あ。る。ん。と。殷。勤。を。乞。め。し。て。面。目。を。失。ひ。ひ。る。り。ふ。ま。教。目。の。化。國。を。幸。ふ。常。に。さ。り。て。こ。故。あ。る。人。を。夜。中。に。招。入。を。い。ふ。お。は。ず。も。あ。ら。ぬ。内。方。の。内。入。り。け。り。ま。少。ひ。り。さ。き。罪。に。遇。ふ。べ。し。只。希。は。く。穩。俊。の。妻。を。誘。う。人。の。若。う。よ。と。さ。り。れ。し。金。包。銀。包。を。お。し。て。賤。ひ。け。ら。し。け。男。を。さ。り。り。文。ず。け。同。答。あ。ら。ざ。り。と。立。ち。つ。時。も。床。の。柵。な。り。し。一。發。れ。笛。を。さ。り。て。あ。ら。る。を。さ。り。あ。ら。る。を。さ。り。あ。ら。る。を。さ。り。

り。政光ハ引互てい家君を忍むをせり。毎夜ハあはせて。教目の。後。竹。井。の。城。へ。入。を。り。り。り。が。幾。や。も。さ。く。君。を。敵。に。あ。ら。れ。進。退。を。失。ひ。山。口。の。河。原。を。葉。の。用。防。ま。り。ぬ。却。て。後。彼。一。發。ハ。身。の。重。さ。を。失。ひ。て。家。内。探。ね。迷。ひ。り。り。り。彼。商。人。本。海。に。女。房。の。親。里。へ。江。原。ま。り。り。そ。の。笛。ハ。我。等。に。あ。ら。る。と。告。げ。さ。し。女。子。の。難。を。披。ひ。い。笛。を。さ。り。返。さ。ん。ぬ。今。銀。を。さ。り。り。の。屋。を。焼。く。と。い。ふ。本。海。さ。り。お。し。て。中。ま。り。我。ハ。富。山。政。光。の。家。人。な。り。年。來。平。野。の。花。井。を。討。て。我。世。子。に。敵。を。與。さ。せん。お。し。あり。助。力。お。し。つ。と。り。さ。り。り。否。か。り。議。ひ。て。そ。の。費。用。を。さ。り。り。あ。ひ。花。堂。の。遠。近。さ。り。聚。會。し。て。子。配。を。定。め。杉。原。遊。佐。の。く。と。さ。り。平。野。へ。夜。討。し。て。花。井。を。焼。く。討。て。り。り。さ。り。り。さ。り。君。尚。慶。を。請。ひ。を。り。河。内。の。宮。原。に。城。と。築。き。て。根。柵。と。な。り。り。早。ぬ。彼。政。光。と。本。海。と。お。し。せ。バ。一。味。あ。ら。る。根。柵。水。音。と。あ。り。政。



英州内中續編卷五

光本音を記す。そ伴ハ一流にて其傍ハよく年一たり。但ハ洞をハ切
て知らざりたり。商家ハ妻女ハ正室家の相ありて。一時の急病ニ
至リ其名を顧みず。本澤ガ名をなせしハ僅ニ符合せり。僕ハ振環
ガ相せし人々あり。水金本ハ室うらるる喜博の相を音變する所し。
人ハ是活勅記を引り抄。末末の合べうらるることかこの如し。

九 白分の飛運ニ乗じて大ニ發信する話

霊場の縁起曰。信州文科の郡ニ毛谷辺白分といふあり。先祖ハ允
恭天皇小出て中法の人罪を朝家よけて地ニ遷され。今ハ世代後
ニ後土の赦免ハ先代ニ宣下るるがごとし。後友の推奉も受けしハ還り
信づこふもか。そ伴ハ一畝の民とあり。貧窮をれども土地の人
依旧白分と呼ぶ。白ハ素人のことなり。分ハ大友の目あり。民なれども
大友のまをさバ。無友の分といふれ名なり。幼名を小三と云ふ

はく多なるバ上は二位と云ふ。隣の水田部司の如く治てくるよ
附搭してりつ。大和の嘉知のまをを尋求して侍者とする。身ハ獨
あり。けまよても田の端をゆく耕をかり。貧を憂へて泊瀬の親自
在に移りて年あり。け本その靈をかくるよ遠あらず。遠をの士衆
をうす所なく渴仰して其利益をなす。修く少新羅國の后妃不義
を過りて繩を交け。高く吊られて踏踏の地ををるせむれハ苦し
れあまう泊瀬の名残すつと不義を改めんと誓て。遠くけ國の大
士ハ拔苦の助力を求めり。時忽として足下ニ金床を湧出。一身
を安んじぬ。とや。國遙ニ隔りて其志の通るべき時刻もなきに。信
公の感應するに打て其の應るがごとくあるを。ま。てや。種なき山
を朝夕ニ祈りたりて。其験を記す。ぬハ。或ハ。これ。冠弁の子孫ふして
農業ハ福を好る。とや。豊年も。僕の妙。一。苦むハ。農家なり。と。農を

て高とある。從高利なく。或ハ世家の後者となせハ我より下ノ人か
 一。通信の脚力とふきハ位不々一室にす。野をち程の茅屋も茶や
 利をふささほろや福の籠うらると。居を南に廻け西東にトす。或
 ハ名家ハ刺拵なけども。鼎や古くして。銭拵よろ。ち刀ハ家傳か
 せども。そ。劔文身の五行に及らやと。人かハ換うて改むきと。改
 めぬりのハ朝夕の櫛細けきハ。實をひ出し。我名を小之とよぶと。
 福を運ぶの称は。次と太方と改号し。又ハ。風土の人は合衆
 合あるやと。大和を去て近江にうつ。高崎神橋のあつるは。依り位
 一。いづらある土着を買て。茶師ハ。負ゆきて。賣して。我志おれけき
 ども。是そと。培と。世の人乃。初瀬の利生をとあつると。ハ。日月乃
 著明あるが。ぬく。なれぬ。お。い。き。を。か。り。う。ん。と。お。ひ。う。う。と。淡海
 より。二。日。の。初。程。を。乃。の。後。宜。ハ。あ。わ。く。特。地。ハ。月。毎。の。系。信。を。お。ひ

立り。是も。二。下。を。き。ぬ。一。妻。の。系。信。ハ。己。ノ。諱。を。う。て。淡。海。の。石
 壇。ハ。踏。て。息。を。納。り。け。ま。甘。息。さ。る。人。を。ま。り。入。ま。り。て。幾。ぞ。乃。人
 の。中。子。考。る。修。験。道。あり。他。か。ま。り。詣。で。ま。る。よ。を。憐。れ。そ。始。終。を
 守。て。甚。と。恨。び。す。是。下。の。素。姓。い。う。も。ま。り。時。際。う。て。民。の。多。ハ。常。なる。よ。
 いう。ら。う。り。れ。ら。量。を。足。る。不。と。て。今。を。多。う。と。さ。る。志。一。途。な。う。ず
 して。非。を。除。け。憐。れ。を。叩。き。世。人。れ。ま。ま。お。ひ。て。迷。ひ。は。迷。ひ。て。身。を。う
 ら。こ。人。を。う。う。や。之。容。貌。も。か。け。ら。傷。ま。り。ま。の。う。う。あり。俗。ハ。皆。と
 や。業。あ。れ。ハ。命。あ。り。と。し。を。我。初。道。の。着。り。の。志。学。を。さ。れ。ハ。ま。境。ハ
 ち。う。て。業。を。結。し。む。に。一。冊。の。善。命。書。と。翫。眼。五。十。綱。を。あ。く。時
 服。れ。ま。し。う。そ。逐。ひ。ち。ら。よ。道。を。う。う。人。を。た。が。し。て。関。れ。東。之。野。の。小
 ま。ぐ。も。け。り。め。ぐ。り。ぬ。る。時。ハ。彼。不。の。土。産。履。て。來。る。是。子。を。谷。ハ。擲。る
 獅子。の。志。を。と。ぐ。ま。り。と。れ。と。我。生。業。の。常。伴。う。て。乃。の。信。を。よ。こ。ハ。身

を憐むべし。世運道理の瘦利。拙の怪も角を折り。おなることとせしめられ
 せ。我駭を頭といたましくしてさひおとせしむる中。むうううと
 えぬい占トのいごあう。人の遂ひをさうよとせしむる中。あまこと。そ人の遂
 ひあうハ廢せしる生業のこまき。拙さりのいたきり。琴人。富乃。肥り
 きく。是れあう。積まひされぬ。我身一つは。すすとあう。亦馬蹄刀
 そりて。瓢酌の裏。よ切るのたご。切合せる。中。のゆり。約し。こまき
 らざれ。二人のなまき。も。命だ。ぬをいんせん。道。度。さりの。を。連
 累あう。世の困樂ハ拙さり。安住ハ交り。少。よ。依。連累を拙
 とせし。安。居。残。十。ふ。れる。も。も。苦。公。三。年。と。れ。放。心。一
 代とせし。されど。方。伯。子。を。搦。の。富。ハ。域。ハ。あ。る。づ。ら。び。と。か。る。を。万
 云。富。ハ。空。る。業。ふ。し。材。質。ハ。空。る。ま。た。し。何。を。業。と。せん。思。文。を。相
 て。給。は。ま。と。同。ふ。山。伏。云。我。今。足。下。の。あ。よ。さ。ひ。を。終。る。義。切。な。れ。ハ。
 義。切。な。れ。ハ。

若くハ占トを説西正一が。ト者ハ知己をりし。義士ハ生むを
 断る。足下ハ妻あう。や。い。ま。じ。山。伏。云。い。ま。ど。妻。を。け。れ。ハ。人。家。の。還
 空。す。書。ふ。そ。ふ。あ。る。づ。ら。納。る。づ。ら。客。を。そ。む。り。聲。を。あ。ら。う。云
 此。是。利。あ。う。バ。魂。ハ。い。と。ハ。ず。山。伏。云。是。你。の。今。日。れ。見。な。り。一。時。の。花。り
 子。孫。の。榮。う。各。を。死。ひ。あ。り。今。を。悔。う。を。窮。め。ん。ハ。福。を。有。つ。も。禍
 水。財。火。を。滅。し。小。池。の。水。面。を。見。て。淺。山。の。在。ま。を。さ。る。づ。ら。客。ハ。ぬ。え
 の。徳。が。う。賂。え。ぬ。べし。麻。曼。と。娉。娉。と。襪。一。掬。ハ。盈。さ。る。ハ。貴。家。の。選
 有。り。是。も。三。代。の。外。ハ。和。歌。ふ。し。座。詩。の。外。ハ。詩。か。し。と。つ。み。が。め。く。よ。て。
 其。ハ。近。こ。を。あ。ら。う。は。教。も。は。い。ま。ま。ハ。あ。る。儀。の。唇。柳。の。鏡。そ。れ。く
 あり。西。施。あ。う。て。聲。よ。く。褒。ぬ。の。こ。う。く。多。く。あ。る。づ。ら。眼。頬。鼻。口。拳。依
 柔。媚。一。そ。の。ん。よ。可。あ。る。所。を。あ。ら。う。顧。眄。の。好。看。と。せん。の。何。ぞ。必。ず
 悉。く。休。る。こ。を。ま。さ。ん。農。家。ハ。大。ハ。骨。を。く。し。て。勞。ハ。堪。へ。高。家。ハ

記臆ありて理よきこととて銭をよす。お生業の越ハいりあるや云。人の多
 くおざることを利多かん。其令花よく奥よ賞て京師よ賞る白
 藤舞踊る馬場小求て中求小うる顔なり。唐去ハ賞を乞ふ一
 整屋千錢よあり。赤絹是よ次とす。ば玉の絹を任那新羅よ文ゆせ
 バ快利ありん。山伏云。西去りてより赤絹乏しく。彼地ハ水路便宜
 なく。山途運送難し。國大よ南小遠く。小國此産南國の用よ及ず。却
 我小の船路便宜あるよ買て南國の用よ充つ。是志う。私の賣買よ
 あらび。湖水を飛跨の見後をやめてよ。是下已よ近江よ賞て泉和ふ
 賣るれ活業をありぬれ。びうがうの茅一根より利倍を与了れ。
 柑子一盆を賣貨よ付る程の天福ハあるま。我くはを教をトセ
 ん。我トハま法世よ又あり。今日ある人の流ハ今く靈場の奇偶あり。
 ち地よ縁て本教を乞ふ。観音の応現えハ三十二あり。トよ多教ハ

除くへし。ハハ奉朝乃極教あり。三八時と日と刻あり。八拂ひよ三々
 ひし。初ハ陰く時ハ七つを刻を。是下ハよ七色の貨物あり。左
 万んよ教へて云。實よ七色あり。志くハ中よて歳の退きよ就へし。
 半よ跨りて奔りる。子よまよいつらん。眷属を求るハは月章
 あんのみ。太万そ詞此瑣細あるよ終ふとい。是即ち観音の告を
 うせぬよぞと敬して是を謝し別をさせり。それより初瀬乃傍
 辺森とよ初よ。知音の人説合して妻女の縁あり。由来をよハめと
 とい。人相ひく。ト者の言をもあれ。是は娶りて。流海よ取
 己言ゆよ。一人の流老をえ。よ。雲花とよ。カ強くして勞を
 辨せ。嘗て大山寺れ。二五小祈りて力をゆるり。と。右万店を用て
 七種の物を居く。 田作 乾蔬 柑子 串鮑 青魚子 麻布
 蘭絮 岡店の夜。右方が夏よ妻女の後よ十人の童子流ておよ。

その中より八人辞して去る。七人ハ留ると云々。さて妻はかれば。我も
七人の子傍に侍らんと云々。と云々。よれば。吾子も及んとおかる。
け妻は坐して敬つて。小んよ。ぬまう。かひくる程。家業の益多く。物を
奥の調布首の飾とて。穿つる。法喜をて。利倍あり。冬南より。柑
子多。穿つる。江戸の品。よまらう。て。僕よく。賣らぬ。そは。鶴が園。土を
築う。とて。鎌倉殿。自身。土を。とび。ひき。れ。東ハ。國の。法。家。人。夫。を。率
て。自。築。う。と。く。日。限。急。に。倍。一。倍。本。殿。より。多。人。夫。去。を。ん。と。よ
料。よ。か。く。ま。を。賣。を。申。し。柑。子。の。空。く。か。く。ま。多。く。積。累。する。を。賣
聚。る。人。一。つ。柑。子。の。入。る。僕。買。て。け。ぬ。是。の。こ。た。う。ず。倍。は。潤。色
して。と。ひ。立。妻。を。具。して。信。州。に。還。ま。ば。え。の。白。め。と。名。の。う。父。母。れ
塚。を。も。拂。ひ。高。知。の。人。も。尋。ひ。け。不。り。て。土。地。利。用。の。七。種。を。貸。物。と
し。干。魚。蒲。紫。暴。布。など。他。國。に。送。り。申。り。て。利。益。お。や。く。次。弟。に。貸

殖を。あつれども。庫。蔵。の。賃。ハ。世。に。多。き。財。ハ。僕。を。減。し。久。く。留。む。ま
ハ。財。を。塞。ぐ。土。地。は。ゆ。ば。と。よ。は。し。も。近。里。の。人。雜。造。して。け。家。ハ。女
房。は。福。神。の。傍。り。て。ね。ハ。身。より。光。り。出。く。燈。火。を。設。け。ず。米。櫃。を。用
る。小。豆。す。身。ハ。綿。を。織。り。糸。ハ。布。を。お。る。量。尺。ハ。丈。を。指。し。裁。刀。ハ。矩
を。用。ず。針。躰。り。糸。を。穿。り。白。を。棒。か。ひ。う。と。睡。ハ。さい。か。う。その。こ。ま。も。夜
よく。酒。を。た。う。て。ハ。袂。を。ひ。ろ。ぐ。す。と。も。う。ぬ。こ。と。も。言。流。す。程。よ。ま
よ。の。領。家。も。我。の。館。先。祖。蝦。夷。を。撃。つ。て。功。あり。蝦。夷。と。号。して。け
君。を。編。よ。高。館。麻。衣。と。材。に。敷。く。る。折。り。け。女。房。の。老。あ。り
福。あ。り。て。多。福。云。ある。よ。放。殿。つ。て。古。代。の。賃。朴。野。炊。が。ら。も。賭。う。し。ま
是。を。ゆ。ん。と。す。吉。祥。天。を。意。と。ハ。是。を。や。款。目。は。含。め。て。勝。負。の。目。も。銭
企。し。め。初。ハ。材。實。を。注。地。し。於。時。計。を。以。て。勝。人。と。す。近。頃。に。膠
して。云。ま。れ。角。力。を。以。て。勝。し。せん。と。謂。し。め。先。づ。本。去。な。き。ハ。白。め。と

對せん。白分勝る。領地のさふ。稲部萬束の地を永代とす。一領家
勝る。白米二万斛を白分出さる。一と式を定む。白分は、戦てきよ
か。領家の濫る。或は、請り、妻云。是、片、鄙、そ、各、政、も、普
く、新、い、す。さ、中、の、胡、乱、も、行、つ、く。勝、負、も、く、も、材、實、ま、く
奪、は、さ、ん、も、知、る、く、く、速、は、い、ま、を、ま、く、も、と、雜、具、奴、婢、を、素
て、勝、る、知、考、の、水、内、の、教、司、へ、立、の、さ、り、る。文、級、を、水、内、に、若、て。
白、分、ハ、我、那、に、先、代、より、た、近、の、氏、族、あり。他、那、に、近、く、す。あ、後
土、波、さ、く、一、と、命、を、傳、ま、ぬ、計、り、て、不、論、勝、負、も、及、ぶ、か、う、ハ、け、那、に
て、對、と、り、る。事、と、て、悔、も、あ、た、く、と、と、水、内、に、や、と、い、け、上、ハ、勝、負
を、く、執、証、ハ、我、那、あり、と、力、を、さ、く、あ、那、司、誓、約、の、文、を、以、立、隣、邑
安、曇、の、那、司、を、請、て、証、人、と、さ、く、あ、方、お、の、く、角、力、を、券、り、衆、め、け
る。よ、先、水、内、より、相、撲、ハ、並、さ、さ、の、鹿、鹿、を、く、ろ、坂、の、飛、子、岩、の、の

の、鉄、ハ、か、と、先、集、ら、文、科、ハ、急、て、の、備、一、也、領、家、より、近、生、と、え、く、と
て、本、も、願、ひ、さ、り、り、く、く、あ、く、川、の、凝、結、は、あ、り、の、虎、太、夫、こ、い、ま、り
の、敵、を、先、と、く、屈、強、の、骨、柄、の、さ、ら、く、く、強、さ、成、度、し、て、下、さ、り、立
表、裡、を、以、て、勝、ん、と、さ、り、そ、身、壯、あ、き、時、ハ、水、内、の、方、一、大、の、男、二、人、身
れ、を、存、く、對、した、ら、が、出、來、り、あ、り、て、業、忠、入、及、の、門、弟、な、り、若、者、を、
拵、て、け、勝、負、を、受、て、さ、り、と、云、を、綽、号、を、回、へ、と、も、サ、さ、す。名
ハ、さ、く、と、て、よ、び、あ、と、り、下、つ、が、い、と、せ、試、る、一、力、を、本、の、よ、り、さ、り、と、云
晴、角、力、や、と、て、矜、羯、羅、制、を、加、と、て、名、づ、け、ら、る。水、内、方、を、競、ひ、て、保
屋、つ、り、い、く、定、日、は、な、ま、ハ、師、廣、代、引、ら、南、壇、の、東、西、に、屯、す。持、補
の、中、央、ハ、諏、訪、の、内、社、を、勅、護、一、館、の、代、人、あ、那、司、安、曇、那、何、も、も、直、布
を、掲、げ、て、陰、こ、ん、り、九、一、團、の、變、姓、女、と、お、れ、來、り、ん、ら、ハ、か、一、部、署
乃、行、司、さ、り、り、の、あ、人、壇、は、さ、り、八、方、を、お、一、條、目、を、後、を、さ、り、正、西、に

乃行司さるりのあ人壇はさり八方をお一條目を後をさる正西に



英州白川新編巻五

立てるを拵こ日音より。今年のお撲ハ大衆賭拵れ乃ニ発起。即
 園繁昌の瑞兆なる。抑は業ハ神代より習来し。勝んとして悪き者
 人情本流の戯きあり。朝晩の始ハ野見蹶速の後ニ節會とたる。座
 土ニを會を錦標社とす。それお撲とい互にお推て力術をた
 らく。彼がまくりハ赤ハナリ。彼が勝子又すまハせいと云られこと
 むなり。世々人亦不流をすまふと。お撲の音より起るとも承る。勝
 も願も禮を失はず。土地安靜の内新待也なりと。謔と叙て壇
 ぐ。やぐて方又對ハしむ。西の屯より處る。東より鉄八壇一のぼ
 る。行目名乗を拵んとする時。東の賭方の家僕雲莊壇小上。鉄八
 を引さげて我合人といふ。瘦る素の男なきは凡人大胆者と懸む
 もあり。壇をおりよとせりもあきと。そそ莊引色んず。是こそ究め
 て何を換むべしと。お那司より白め退せしと。新きれどもあつて

初司又てけ人の身をらんらよお撲せ一人なり。け一對ハ彼ノまうせよ
 と。駭を擧て立合せ。そそや對いし。處るハ内さありて。日ごと力を
 ひいて對をころろる。雲莊も不存あきバカ乃程を見せず。たがひ
 かけつりし。わむらほどぐ。處るふ十か入りし。ととハ閃さ
 れく。去は勳む。勢ひ舞つて雲莊も一く倒て満場の笑いを擧ぐ
 しむ。雲莊今一對して勝者を定めんとす。そハ一對ニ處の定めさ
 きハとてゆるさず。やぐて西より款無壇の上きバ。東よこんぐ上る。あ
 方魁偉小山の如く。人ぬ目も獅子り虎ら。おそれ腕をよと懸き采
 る。己は對ちとこんきハ款無色ニ窓さある勢以奪雷れ如く。又け
 取を壇の端よりうてこんぐ。腕を度て彼ら肩を一掃す。款無右脚
 踏て左脚發會踏つて套を出て倒る。そ力あること存孝虎を打の
 雄威もかくやとんぬ。こんぐうまかく強けきハせいとうハさこそと云ひ

中。己よかよのお撲よりして。双方壇より上る。西の虎は東のせい
 たり。いばきも當時の權をさへめられ。八霸王各山は道の勇あり。時
 ます。雲霧壇より上る。虎大まは對せんともむ。行目焦燥てがる
 命をさすやある。是為常此款とさふ。撮られく碎けぬべし。迷は
 壇をとり命をつぎひと叱る。云はたるの勝負なき。人よ。合せと立去
 らず。賭をよるも乞をて。勝とも負ともんまらべし。とつ。さあ。い合
 ともくと部署承る時。文科よ。お撲の窓を上下。廻まらる。の
 さま。ばめ。ふや。さひ。らん。あ。ふ。壇。よ。踏。り。あ。ぐ。り。雲。霧。と。勝。負。を。定。ん
 とす。領家より。も。望。ま。せ。ば。是。を。と。ま。の。勝。方。と。約。し。立。合。て。行。目
 己よ。醫。を。捧。て。力。勢。を。叫。び。希。後。た。右。を。回。り。て。目。を。放。す。あ。こ
 ぶ。先。よ。雲。霧。が。子。格。を。知。り。て。只。取。と。て。倒。え。ん。と。す。り。雲。霧。小。材。よ
 身。ハ。只。電。の。ぬ。く。右。よ。ま。り。た。よ。う。つ。る。あ。ら。ふ。公。え。て。身。を。固。め。て。動

ず。遂。身。の。際。を。見。て。双。子。捕。て。ゆ。り。と。か。つ。つ。く。大。力。よ。と。め。れ
 て。自。在。あ。る。ぬ。雲。霧。這。個。が。兩。臂。を。以。糸。く。拘。住。て。眠。り。ぬ。く。は。つ。り。と
 敵。を。老。す。是。柔。術。の。も。と。を。用。い。れ。ら。ぬ。も。最。も。よ。入。あ。ら。方
 を。出。す。と。あ。ら。ず。俄。ら。歎。の。吟。ひ。あ。ひ。ら。と。志。ぞ。く。え。る。内。雲。霧。精
 氣。を。強。て。力。を。成。出。云。と。一。お。ま。れ。き。長。あ。ら。伸。る。と。一。尺。を。う。一。寸
 此。肉。懐。記。て。乞。答。を。ほ。金。剛。の。暴。ら。る。も。形。や。と。紐。む。は。成。拂。ひ。ま。り。下
 撞。よ。搦。れ。ら。ぬ。こ。ぶ。眩。ま。り。踏。ま。え。ん。と。す。る。和。を。頂。平。叩。れ。ま。り
 か。よ。踏。り。編。む。是。を。見。て。百。千。万。人。喝。采。大。よ。勅。き。湧。て。お。撲。ハ。散。り
 々。々。領。家。が。懐。く。同。じ。と。い。ふ。三。郎。の。誓。約。よ。輕。き。う。れ。は。愛。ら。す。と
 吐。き。出。す。や。領。地。を。鉦。お。備。よ。及。ば。收。公。の。例。な。り。遂。に。領。家。乃。半
 分。を。水。内。より。檢。地。して。清。ね。ぬ。文科。の。た。く。ま。の。ひ。の。外。く。す。と。る
 こと。に。お。よ。ぶ。二。夜。の。眞。行。の。い。も。よ。う。す。彼。人。が。う。せ。い。と。り。も。領。家

の同者にて言ふくめて竟に負はずとて候ありしを。是偏に雲龍
 が出生を祈りたる金剛の加護より勝をいりて。是より七
 地の人白ゆも若ともい。今や實に是天竺素封のめたる。女房
 六人乃男子を奉さども。雲龍をお獲し。長子をそれがり子
 長者といひ。かくあまは。長事とて。白ゆハは。長老の長名
 拘り。諺に未富してよく富みのハを全くせず。山國に任
 必に氣弛て大志を遂へ。人土地をいさ。安室を是とて。抽
 乃幾を失ふべしと。賭は勝る地を鉄返。入を領家の配女小
 して海辺の地成え。紙の漉浪は移り。任と文級と。貨物を往來
 其上農家商人山林衣食の系あり。是と互に貨を通せれば。美
 抽鏡あが。と。み子成役して。決ふに通船して。交りする。往とて。

して利あり。財紙に載つ。ハ大利。非ず。聚寶盤
 に登す。ハ大富。有と。有と。ハ。有と。白ゆ
 包る依の金銀浪沙通國。は。家業月と。日小感。人あり。と。停
 不を。と。記。

古今奇談新編向冊第五卷終

古今談

英草紙

全部五冊 先達る發行

英草紙 後編

繁野話

同 五冊 同断

義經磐石傳

同 六冊 近日出来

天明六年丙午正月吉日

心齋橋筋順慶町入

柏原屋清右衛門

博勞町入

同 重兵衛

博勞町井池东入

同 嘉助

心齋橋筋傳馬町入

同 佐兵衛

順慶町南入

同 庄兵衛

南久寶寺町南入

同 河内屋八兵衛

浪華書林



